

【前回の小テストの答え】

- ・ ウェブで確認。

【前回の要点】

- ・ レポートでは自分の意見を根拠づけて述べましょう。
- ・ 調べてきて発表！
- ・ じゃあ、どうすればいいのよ？

⇒そこで、前回の復習小テストをします。

【書いてはならない魔法の言葉】

- ・ 「それはよくないと ()。」
- ・ 「思う」はマジックワード：それを書くと、() を書かなくても気にならなくなる。
- ・ 「それはよくない！」と言い切ったら、ほら、収まりが悪い気がしてくるでしょう。

→「思う」と書いてしまったら、それを消して、その代わりに () を考えよう。

【書いてはならない魔法の言葉②】

- ・ 「いろいろ」「さまざま」
 - ・ 「ある程度」「何となく」
 - ・ 「考えさせられた」
- } 文章を書くのが苦手なのは、()。
- ・ 「聞いたことがある」「言われている」:
 - ・ 「楽しかった」「～と知って驚いた」:() は評価できない。

【書かなければならない接続詞】

- ・ 文章は短く切って接続詞でつなぐ。「」の4つが基本。
- ・ 起：テーマを書く。
- ・ 承：()、とテーマに関連する具体例を挙げる。
- ・ 転：()、と反対の事例を取り上げて検討する。
- ・ 結：()、と結論を導き、()、と最後のまとめをする。

【コピペでなく「引用」をする】

- ・ いろいろ調べて書いてくれる人もたくさんいます。
- ・ 「ウシにモーツァルト」とか書く前に調べよう！
- ・ 調べたときには、() を書きましょう。
- ・ ウェブサイトの場合、() の4つの情報が必要。

【しかし、ウェブにはウソがいっぱい】

- ・ そこで、「ウィキペディアは使ってはならない！」

- これだけ言うと、「Yahoo 知恵袋」とかをコピペする。
- ・ なぜいけないのか？
- 信用できる情報はどうやって見分けるのか？

【前回の復習：出所表記に示すべき情報】

- ・ ウェブページの場合：制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時
- ・ 本の場合：著者・タイトル・出版社・出版年・ページ
- ・ 論文の場合：著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ

【 】

- ・ ただし、「実名を出している目立ちたがりの人」もいる。
- ・ ()
- ・ しかし、内容が信用できるかどうかはどうやって判定するのか？

ポイントは、() の書かれていない情報は信用しない。

- ・ 出典が書かれていたら、()。
- ・ ウェブ情報は () するのがよい。

【ウェブ情報の使い方①：データを調べる】

情報のありそうな場所

- ・ 政府や調査機関が行っている統計データ。
- ・ 新聞記事のデータベース。→図書館のウェブページから検索できる。
- ・ たとえば、「近年、少年の凶悪犯罪が増加している」
 - そういうふうを書いてあるウェブページもたくさんありますが…

【ウェブ情報の使い方②：論文を検索しよう】

- ・ 「出典が書かれていたら、その出典の方を参照する。」
- ・ 現代社会において、「信用できる記述」は最終的には「 」に至る。
- ・ 「 」に掲載された論文。

論文を検索するには、やはり図書館のウェブページから。

欧文雑誌論文を探したいときには Google Scholar

今日のまとめ：書き方編

- ・ 「思う」を消して理由を書く。
- ・ 「いろいろ・さまざま」を消して具体的に書く。
- ・ 「聞いたことがある」を消して出典を調べる。
- ・ 接続詞「たとえば・しかし・それゆえ・つまり」で文章を構成する。

今日のまとめ：ウェブの利用法編

- ・ 匿名のウェブページは信用しない。
- ・ 出典の書かれていない情報は信用しない。
- ・ ウェブ情報はきっかけとして利用する。

今日も宿題：授業コメントを来週月曜までに manaba で提出！